

山城知佳子

Reframing the land/mind/body-scape

YAMASHIRO CHIKAKO

鑑賞ガイド

この展覧会では、洞窟にも似た地下展示室内に、山城知佳子のこれまでの代表作と最新作《リフレーミング》を、相互に共鳴する主題やモチーフの連なりに沿って配置しています。このガイドでは、ゆるやかに設定した章ごとのテーマとともに、作品に登場するモチーフや鑑賞のポイントを紹介します。

展覧会のタイトルでもある「リフレーミング」とは、ものごとを見ている枠組みを変え、別の枠組みで見直すことを指しています。創作を通じて、故郷沖縄の風景と精神性、そして身体性についての思考を、独自の視点で掘り下げてきた山城知佳子の作品世界を探検してみましょう。

展示内容は事情により変更することがあります。

The contents of the exhibition are subject to change depending on circumstances.

起点 — そこにある風景

《BORDER》

- フェンスの向こうにお墓が見えます。沖縄には、土地を接収されたため、祖先をまつる家族の墓が米軍基地内に取り残されてしまった人々があります。日本国内にある米国軍用施設の7割が、沖縄に置かれています。
- 沖縄のお墓は家や亀の甲羅を模した大きな墳墓が特徴的で、その前には人々が集う場所として取られた「墓庭」という空間があります。
- 裸足で墓庭を飛び回っている・フェンス沿いに歩き続けているのは、作者の山城知佳子です。
- どのような境界線ボーダーが描かれていますか？海へと伸びる境界線は、どこまで続くのでしょうか？

《BORDER》は、故郷である土地の歴史と現実を、既にそこにある風景として見つめた山城の原点ともいえる短編映像作品です。沖縄の海や山、そこに営まれる生活、死者と生者が交感する場の象徴としての墓庭、そして眼前に連なる基地のフェンスが映し出されます。過去と繋がる回路をも断ち切って引かれたボーダー線の抗いがたい力と、そこにある現実を見据える山城の決意とがストレートに表現されています。

私というメディア

《I Like Okinawa Sweet》

- 強い日差しのもとアイスクリームを食べ続けている女性があります。女性がいる場所はどこでしょうか？
- アイスクリームを渡しているのは誰でしょう？

彼女は本当にそれを食べたいのでしょうか？

《OKINAWA 墓庭クラブ》

- お墓の前で、踊っている女性があります。彼女の踊りからどんな印象を受けますか？
- 踊っているのは、作家自身です。彼女はなぜ墓庭で踊っているのでしょうか？

《あなたの声は私の喉を通った》

- 作者は、戦争中の辛い記憶を語ったおじいさんの言葉を文字に書き起こして、その記録ビデオを見ながら、おじいさんの言葉を同じように自分の声で語ってみることを繰り返しました。
- 作者は、おじいさんの記憶を継承することができたと思いますか？
- 最後に映し出されているのは、沖縄の公文書館の棚にならぶ記録資料です。

山城知佳子の初期作品には、作家自身の姿がたびたび現れます。ビデオや写真は、作家が自らの身体をもって主題を受け止め、理解し、そして見る者へと投げかけるパフォーマンスの舞台となりました。同時に、山城の行為を介して、その背景にある場所自体の存在が強調され、見る者に語りかけ始めます。

2007年以降、「戦争体験」をいかに継承することができるかというテーマに取り組んだ山城は、「声」や「語り」を通じた継承のありかたについて、さまざまに考察を重ねました。《あなたの声は私の喉を通った》では、絞り出すように自身の痛切な戦争体験を伝える他者の語りを、繰り返す自らの声でなぞることを通じて、いかに他者の経験を理解し体感することが可能か、あるいはそれがいかに困難か、をあらわにしました。

「翼があるぞ」

「おどろいたか」、と老人が言った。

「このみんなが翼をもっている、

だが役に立たないからもぎとれるものなら、
そうしたかった」

「なぜ飛んでいかなかったんだ？」と

たずねると。

「自分の街から

飛んで行かなければいけないのか？」

ふるさとをすてて。死んだものたちや神々も？」

「バニアンドー」

「ウドルチイー？」 トゥトゥンウイヌイヤッタ

「フマナイウルムルガパニムチユン

ヤスイガ、ヤクタータンディチムディトゥラレル

ムンドゥアレーアニシーブーシヤアタン」

「ヌーディチトゥディイチャンタガヤー？」

ディチトゥータトゥ

「ドゥヌムラーラトゥディイチャンナレ」

ナランタルバイ？」

ドゥヌムラーユルチャケシジャルムンジャンジャン

ハニガミンナー？」

高橋悠治『カフカノート』(みすず書房、2011年)より、抜粋
Quotes from Takahashi Yuji, *Kafka's Notebook*, Misuzu Shobo, 2011

“He has wings!”
“Does that surprise you?”asked the old man.
“Everyone here has wings.
But they are useless – I would tear them off if I could.”
“Why did you not fly away?”I asked.
“Why should I fly away from my own town?
Why leave my homeland, the dead, the gods?”

「날개가 있어」
「놀랐느냐」하고 노인이 말했다.
「여기있는 모두가 날개를 가지고 있지
하지만, 쓸모도 없는 것이라 뽑아버릴 수 있는 것이라
면, 그렇게 하고 싶었다」
「왜 날아가지 않은 거지?」하고 묻자
「자신이 사는 곳에서 날아가지 않으면 안되는 것인가?
고향을 버리고 죽은 자들이나 신들도?」

中里友豪『キッチャキ』(出版舎Mugen、2013年)より
Nakazato Yugo, *Kicchaki*, Shuppansha Mugen, 2013
[英語訳：川田康正 (Art Translators Collective)、伊江島方言訳：與那城彦興、
韓国語訳：趙純恵、キム・ソヌ]
[translated to English by Kawata Yasumasa (Art Translators Collective); to lejima diarect by
Yonashiro Genkou; to Korean by Cho Sun hye and Kim Sunwoo.]

울렁울렁 울렁울렁 용천수가 쏟아올라 흐르듯이 모어가 울린다 어머니가 말하던 말 어머니와 말을 주고받던 말 말은 말하자면 피의 약속 울렁울렁 헤어도 버릴 수는 없는 것이다 이화(異化)의 지각변동이다 말을 가지지 않는 자립이란 없다	異化の地殻変動だ	ことばを 持つた ない 自立は ない	異化の地殻変動だ	ことばは いわば 血の約 束 ボコボコに されても ホゴにする わけには いかな い	母が語っていたことば 母と語り合ったことば	湧水が膨れ流れるように 母語がひびく	ホゴばこ ホゴばこ
--	----------	--------------------------------	----------	---	--------------------------	-----------------------	--------------

キョロキョロ見まわしてことばを逃したのか
手で見せびらかせて大切そうにするな
自分で言ったり返したり詩人でありましょうか
イチャイチャしているがいつまで待つのかねえ
おしゃべりばかりしてころは忘れて
対等な物言いが何者だきさまは
居眠りばかりして(鳥)は見えない
ぼけっとしていいるから海まで取られて
したたかにバカにされて
どうでもこうでも生きていく
アマミークマミークトゥバドゥヒンガチー
ムツチョーヒツチョーアタラササンケー
イチャイハンチャイシンガヤミセーラ
タックワイムックワイイチマディガヤヤー
ユンタクヒンタクチモーフシテイ
イーヒーアーハーヌーサルムンガ
ニーブイカーブイシマーミールン
トゥルバイカーバイウミマディトゥラッテイ
ウツチエーヒツチエーウセーラッテイ
アンシンカンシンイチチイチュン

You look around, this way and that Did you lose your words?
Stop flaunting with your hands And acting all precious
You speak back and forth with yourself Are you a poet or something?
You flirt your time away But what are you waiting for?
You chat away Forgetting yourself
You speak as an equal Who do you think you are?
You nap away Not seeing the Islands
While your head was in the clouds They took away your sea
Stoically You bear their mockery
Living on Whatever may happen

두리번 두리번 둘러보고 말을 놓쳐버린 건인가
손으로 펼쳐 내보이며 소중한 책 하지 마
혼자서 말하고 답하고 시인이라도 되는가
다정히 엄했었지만 언제까지 기다릴 것인가
설새없이 떠들다가 마음은 잊어버리고
대등한 말대답을 하고 있지만 누구냐 네 높은
줄기만 하다가 <섬>은 보이지 않는다
멍하니 있으니 바다마저 빼앗기고
세차게 바보취급을 당하며
이렇게든 저렇게든 살아간다

中里友豪『キッチャキ』(出版舎Mugen、2013年)より
Nakazato Yugo, *Kicchaki*, Shuppansha Mugen, 2013
[英語訳：川田康正 (Art Translators Collective)、
伊江島方言訳：與那城彦興、
韓国語訳：趙純恵、キム・ソヌ]
[translated to English by Kawata Yasumasa (Art Translators
Collective); to lejima diarect by Yonashiro Genkou; to Korean
by Cho Sun hye and Kim Sunwoo.]

土の連なり、穴という回路

《創造の発端—アブダクション／子供—‘A Piece of Cave 1-16’》

- 会場のあちこちに配された小さなモニターには、幻想的な鍾乳洞の内部を、行ったり来たりする男性の姿が映し出されています。
- 複数のモニターは、画面の奥に迷路のように続く洞窟への入り口のようにでもあります。

《土の人》

- 3つのスクリーンで映像が展開します。1つのスクリーンで映像を見るとときの違いを感じますか？
- 土にまみれて地表に横たわるのは「抵抗することに疲れて、目的を忘れてしまった人たち」だと作者は言います。空から降ってきた土のかたまりは、声・言葉を宿していて、そんな「土の人」たちを呼び起こします。
- 作中に引用されている言葉は、日本語、ウチナーぐち口(沖縄方言)、韓国語の詩です。作者はあえて字幕をつけていません(それぞれの言語で次頁に掲載しています)。

《創造の発端—アブダクション／子供—‘A Piece of Cave 1-16’》は、2015年制作の短編映像作品から派生して作られ2016年に発表されたインスタレーション作品です。パフォーマーの川口隆夫が、泥と一体化しながら洞窟の闇の中を滑るように舞い踊るシークエンスを16台のモニターで構成。奥深い洞窟内を縦横にめぐるその姿は、大地に沈殿した記憶や痛みの回路を繋ぐ地底の精霊のようです。沖縄だけでなく、韓国の済州島でも撮影をした《土の人》は、山城が沖縄という土地と向かい合うことで見出し、長年にわたり格闘してきた「記憶／声の継承」という主題について、さらに普遍的なものへと昇華させた集大成ともいえる作品です。現地に取材し、それぞれの土地に固有の複雑な歴史を背景としてふまえつつ、全体を「土」というモチーフによる寓話として紡ぐことで、文字通り地続きのものとしています。

擬人化された風景

《アーサ女》

- アーサとは、一般にあおさとも呼ばれる栄養豊富な海藻で沖縄の海では岩場によく生えています。波間を漂うアーサの化身の視点から見えるのは、美しくのどかな浜辺だけではないようです。
- アーサ女の息遣いが聞こえますか?この映像と音を鑑賞しながら、あなたの身体や感じ方にどんな変化がありましたか?

《コロスの唄》

- コロスというのは、ギリシャ語で合唱隊を意味します。
- 木洩れ日と深い影によって人の姿が見え隠れするこの風景から聞こえてくるのは、どんな唄だと思えますか?

《黙認のからだ》

- 鍾乳石と人のからだが対置されています。それぞれ別に見ると合わせて見るのとではどんな風を感じ方が変わりますか?
- 洞窟の中の鍾乳石は静止しているように見えますが、実は長い時間をかけてゆっくりと生成しています。

山城の描き出すイメージは、風景を擬人化することで、しばしば寓話的な趣をとります。《アーサ女》では、波間に浮かぶ海藻のように浮き沈みしながら漂うカメラから海岸線をとらえることによって、人でないものが、分断に揺れる岸辺を見つめているという構図が生み出されています。《コロスの唄》には、世代の異なる人々の姿が、コントラストの強い木漏れ日のもとで輪郭を失い、風景とひとつに溶け合うさまが映し出されています。作者は、土地に堆積した声なき者の思いや記憶と、不可能を前提にそれを継承しようと試みる生者の想いの響きあいを、「唄」になぞらえ視覚化することを試みました。13点から成る《黙認のからだ》では、洞窟の奥底で長い時を経てかたちづくられた鍾乳石のイメージが、被写体の動きにより輪郭がぶれてぼやけた人体像と並置されることで、あたかも人体(あるいは異形の生きもの)の部位であるかのように提示されています。

一箇の石ころと生まれ出て
 大きな岩とはならないまでも
 ひとすじのせせらぎと流れて
 広い海に到らないまでも
 君は無限に飛翔する瞬間を待て。

Through you may be a humble pebble
 Born of the barren mountains
 Never to become a great boulder

Or perhaps
 A solitary stream
 Never to reach the wide Ocean

Abide the moment when you soar to eternity.

빈전한 뭇골에서
 하나의 돌맹이로 태어나서
 커다란 바위가 되지 못할지라도

또한
 하나의 시내로서 흘러서
 넓은 바다에 이르지 못할지라도

그대는 무한에 비상하는 순간을 가지라.

金珠變(キム・グァンソプ)「個性」
 Gim Gwang-seop, "Individuality"
 (*)

兄弟よ姉妹よ、
 あなたを慕い、その胸のうちを偲び
 城門の外で待ち侘びている私の涙を
 見て取れるか、見て取れるか。
 兄弟よ姉妹よ、
 崩れた石の塔にひざまずき
 口ずさむ私の歌を
 聴いているか、聴いているか。
 兄弟よ姉妹よ、
 毀れた陶器の香炉に
 顫える手が燻ゆらす紫檀香
 匂っているか、匂っているか。

Oh my brothers, my sisters,
 I kneel at the ruins of the stone tower
 With a song at my lips
 Can you hear it, can you hear it?

Oh my brothers, my sisters,
 My quivering hands burn incense
 In a cracked ceramic pot
 Can you smell it, can you smell it?

Oh my brothers, my sisters,
 I yearn for you and feel your woes,
 Sat outside the castle, waiting, shedding a tear
 Can you see it, can you see it?

李光洙(イ・グァンス)「はらからが恋しくて」
 Lee Kwang-su, "Longing For My Brothers"
 (*)

私たちの戦いはまだ終わっていない
 私たちの戦いはまだ終わっていない
 旗はもはやなびかないが
 鬱々蒼蒼とした林の中
 あちこちにひびく風の音の間
 カラスの音の間

木よ石よ草花よ教えてくれ
 ひびくエコーになつて
 石の隙間 木の根の間
 福寿草 その煮えたぎる血が
 雪の中をくぐって立ち上がる
 私たちの戦いは一度も止まったことはない

형제여 자매여,
 무너지는 돌담 밑에 꿇어 앉어,
 윙조리는 나의 노랫소리를
 듣는가 — 듣는가.

형제여 자매여,
 깨어진 질 향로에 떨리는 손이,
 피우는 자단향의 향내를,
 맡는가- 맡는가.

형제여 자매여,
 님 너를 그리워, 그 가슴 속이 그리워,
 성문 밖에 서서 울고 기다리는 나를
 보는가- 보는가.

We are not yet dead
 Our battle is not yet done
 Through wind and rain have scattered my body
 And the flags flutter no longer
 In the dense, dark depths of the woods
 Amidst the winds whistling all around
 And the call of the crows

Trees, stones, plants, flowers
 Teach me, become a ringing echo
 Among the rocks, between the roots
 See the boiling blood of adonis flowers
 Seep up, rise up, through the snow
 Our battle has never yet abated

우리 싸움은 아직 끝나지 않았노라
 내 육신 비록 비바람에 흩어지고
 깃발 더이상 펄럭이지 않지만
 울울창창 험벗은 숲 사이
 휘돌아 감기는 바람소리 사이
 까마귀 소리 사이로

나무들아 돌들아 풀꽃들이 말해다오
 말해다오 메아리가 되어
 돌틈새 나무뿌리 사이로
 복수초 그 끓는 피가
 눈 속을 뚫고 일어서리라
 우리는 싸움을 한번도 멈춘 적이 없었노라

金京訓(キム・キョンフン)「イ・ドックの山戦」2003年
 『カラスが伝える言葉 金京訓詩集』(教保文庫、2017年)より
 [英語訳: 川田康正 (Art Translators Collective)、日本語訳: 趙純恵、キム・ソヌ]
 Kim Kyonghun, "Mountain Battle of Lee Dokuku," 2003
 from *Words told by crows, Poetries by Kim Kyonghun*, Kyobo Book, Korea,
 2017 [translated to English by Kawata Yasumasa (Art Translators Collective);
 to Japanese by Cho Sun hye and Kim Sunwoo.]

Mother, please listen awhile
 To the hushed voice of twilight.
 Shadow has stolen into the forest's thickets
 And the sound of streams is dwindling.
 The trees too have entered their hour of prayer.
 Mother, please listen,
 Put down your hands and lend your ears.
 The sound of falling fruit
 Rings against the chestnut tree by the fence
 As it clacks on to the earth.
 It is the Universe announcing a new born babe.
 Turn on the light, and come on out –
 Let us go and welcome the new visitor.

お母さん、少しだけ耳を傾けてください
 あの黄昏のひそめた声を。
 森の茂みに闇が忍び入り
 溪川の瀬音もひとしお細くなりました。
 樹々もみな、いま折袴の刻です。
 お母さん、聴いてください
 手を置いてお耳を傾けてください。
 あの垣根添いの栗の木に
 実の落ちる音がひびいています。
 ことりと 大地におっこちています。
 新児が産まれたと宇宙が知らせているのです。
 明かりを点してお出でなさい。
 新しいお客、手厚く迎えにあげましょう。

趙明熙(チョウ・ミョンヒ)「驚異」
 Jo Myeonghui, "A Marvel"
 (*)

어머니 좀 들어주세요
 저 황혼의 이야기를
 숲사이에 어둠이 엿보아들고
 개천물소리는 더 한층 가느러 졌나이다.
 나무 나무들도 다 기도를 드릴 때 입니다.
 어머니 좀 들어주세요
 손잡고 귀 기울여 주세요
 저 담 아래 밤나무에
 아람 떨어지는 소리가 들립니다.
 「뚝」하고 땅으로 떨어집니다.
 우주가 새 아들 낳았다고 기별합니다.
 등불을 켜가지고 오세요
 새손님 맞으러 공손히 걸어 가십시오.

鄭芝溶(チャン・ジョン)「故郷」
 Jeong Ji-yong, "Homeland"
 (*)

I returned to my homeland, to my homeland
 But the homeland I pined for is gone

Though the mountain pheasant sits on its eggs
 And cuckoo calls its season

My heart finds no rest in my homeland
 Like a cloud drifting to a faraway port.

I climb again the mountains' ridges, alone
 And little white flowers smile to see a human being

The childhood reed pipes sound no more
 And my parched lips taste bitterness.

I return to my homeland, to my homeland
 But find only the sky I pined for, all lofty and blue.

고향에 고향에 돌아와도
 그리던 고향은 아니러노.

산공이 알을 품고
 뻐꾹이 제철에 울건만.

마음은 제고향 진히지 않고
 머언 향구로 떠도는 구름.

오늘도 매 끝에 홀로 오르니
 흰점 꽃이 인정스레 웃고,

어린 시절에 불던 풀피리 소리 아니나고
 매마른 입술에 쓰디 쓰다.

고향에 고향에 돌아와도
 그리던 하늘만이 뉘푸르구나.

故郷に 故郷に 帰ってきてても
 思い焦がれた故郷はなくなっていて
 山雉 卵をいだき
 呼子鳥わが季節を謳ってはいても
 心は自分の故郷に抱かれることなく
 遠い港へと浮いていく雲。
 今日も山山の端にひとり登れば
 白い小花人なつかしげに笑い、
 幼いころの草笛いまはひびかず
 干からびた唇に苦みがつたう。
 故郷に 故郷に 帰ってきてても
 思い焦がれた空のみ いや青く高まっていて。

(*) はすべて
 『再訳 朝鮮詩集』金時鐘訳(岩波書店、2011年)より [英語訳: 川田康正 (Art Translators Collective)]
 From North Korean Poetry, translated to Japanese by Gim Sijongm, Iwanami Shoten, 2011
 [translated to English by Kawata Yasumasa (Art Translators Collective)]

風景とからだ

《リフレーミング》

- 舞台となる沖縄本島北部の鉱山地帯はカルスト地形で知られています。カルスト地形はサンゴ礁が化石化して隆起したもので、石灰岩で出来ています。石灰岩はセメントの原料にもなります。
- この物語では、役者たちだけでなく、自然の造形や動物を含む風景が重要な役割を演じています。
- 登場人物たちは、ダンスともいえるような様々な体の動きを見せています。それぞれにどんな違いがあるのでしょうか？
- 複数の画面とたくさんのスピーカーが使われています。この作品は、はじまりと終わりがつながつた「ループ」という形式を取っています。見るたびに違う発見があるかもしれません。

《土の人》で「記憶／声の継承」という主題に一区切りをつけた山城は、より俯瞰的な視点で沖縄の風景を見つめるとともに、沖縄の近現代史のなかで見過ごされてきた事象のなかにフィクションの可能性を見出し、新たなリサーチに取り組んできました。最新作《リフレーミング》では、カルスト地形で知られる名護市安和を舞台に、沖縄の海と山をつなぐ寓話を創作。過去と現在、地上と地下、山と海、人と人でないものを切り結び、現代の風景に重ね合わせる物語を紡ぎだしました。

*会場には、山城知佳子の主要作品が、沖縄本島のどこで撮影されたかを示すマップを掲出しています。ご興味のある方はぜひあわせてご参照ください。

《リフレーミング》

あらすじ

明治13（1880）年の廃藩置県により首里城を追われた琉球王府の士族が、北部の山間部に移り住んだ。かつて緑豊かだったアワ鉱山は、今は埋め立て工事に必要な土砂採掘によって「はげ山」と化し、村民たちは土砂採掘の末端で仕事をし生計を立てている。

村に住む若者・探究は、仕事をせずに延々とボクシングの「防御」の練習をしており、琉球士族の末裔おじいに「鍛えてばかりで1度も試合に出たことがない」とたしなめられても「動こうと思ったときに、いつでも動けるようにしたいだけ」だと思いに介さない。

集落では、鉱山の仕事で事故に遭い寝たきりになったはずの発端が、あちこちで踊っているという噂が広まっていた。川満は発端に弁当を届けにいくが、寝たきりの発端は話しかけても反応しない。

練習を続ける探究のもとへ模倣が赤ん坊のセオ（珊瑚の赤ちゃん）を連れてくる。セオを抱いて散歩に出た探究は、あちこちで踊る発端を見つけ、現れては消えるその姿を追う。

村の海辺に作業員の泡が打ち上げられる。珊瑚の服を羽織った泡の胸ポケットには、「天舟」が映った写真がしまわれている。「天舟さえ見つかれば」と探し回る泡。

土砂を積んだトラックがゲート前に長蛇の縦列を作る。土砂採掘の音は絶え間なく響いている。岩のように固まって動きが取れない村民たちの塊を解こうとするも、跳ね飛ばされて倒れる泡。窓

越しにそれを見ていた探究は心配して駆けつけるがどうすることもできない。一方、現れた発端は、村民のスクラムの中に参入し、塊を解きほぐす。

模倣は、海辺で傷ついた珊瑚を拾っては、水槽で育てている。近頃珊瑚の調子がよくないようだ。朝焼けに染まる鉱山の岩肌。洞窟から出てくる発端。天舟を探して夜通し彷徨っていた泡。

見渡す限りの禿山の一角に花が咲き、風に揺れている。鳥や動物たちは、何かを察知し落ち着かない。採掘作業場では日々土砂が掘り進められ、砂埃が舞う。

夜、作業を終えた泡、探究、川満が公民館前の野外で夕食をとっている。泡は、突然閃いたように、山盛りの白米に食べ終わった鶏の骨を差し込んでまだ見ぬ天舟を想い「こうかな？ こうかな?」と試す。

夜空には満月。昼間の闇の中から物言いたげに蛙が現れ、セオに何かを伝えている。鉱山の崖が呼吸をし始め、妖しく光り出した。模倣の水槽からは大量の気泡が発生している。遠く地響きが聞こえる。鉱山が大きく呼吸を始めた音だろうか――。

キャスト／登場人物

川口隆夫	発端：作業員（眠る男）
砂連尾理	泡：作業員（傷ついた珊瑚男）
尚玄	探究：村の若者（ボクサー男）
山城世逢	セオ：村の子供（珊瑚の赤ちゃん）
仲嶺真永	琉球士族末裔：作業員（おじい）
仲嶺伸吾	琉球士族末裔：作業員
仲嶺良盛	琉球士族末裔：作業員
伊藝武士	琉球士族奉公人：作業員
平敷勇也	琉球士族奉公人：作業員
久高幸祥	模倣：村の男（珊瑚を育てる男）
川満直哉	川満：作業員（発端の友人）
上村泉也 小池美津弘 伊良波航太 高良 實 山本大五郎 具志 一郎 小谷大道	作業員

作品リスト List of Works

凡例

作品リストは、展示作品番号、作品名、制作年、素材・技法、ビデオ作品の上映時間、所蔵先（特に定めのないときは作家蔵）の順に記載した。

Notes

Information in the List of Works is arranged in the following order, catalogue number of the work, title, year of production, media/material, duration for video works and collection.

1

《BORDER》2002年
シングルチャンネル・ビデオ 8分30秒 東京都写真美術館蔵

BORDER, 2002
Single-channel video 8 min. 30 sec.
Collection of Tokyo Photographic Art Museum

2

〈オキナワTOURIST〉より
《I like Okinawa Sweet》2004年
シングルチャンネル・ビデオ 7分35秒
From the series OKINAWA TOURIST,

I like Okinawa Sweet, 2004
Single-channel video 7 min. 35 sec

3

《OKINAWA 墓庭クラブ》2004年
シングルチャンネル・ビデオ 6分 東京都写真美術館蔵

Okinawa Graveyard Club, 2004
Single-channel video 6 min. Collection of Tokyo
Photographic Art Museum

4

〈継承シリーズ〉より
《あなたの声は私の喉を通った》2009年
シングルチャンネル・ビデオ 7分20秒 東京都写真美術館蔵

From the series Inheritance Series,
Your Voice Came Out Through My Throat, 2009
Single-channel video 7 min. 20 sec. Collection of Tokyo
Photographic Art Museum

5

《アーサ女》2008年
シングルチャンネル・ビデオ 7分15秒

Seaweed Woman, 2008
Single-channel video 7 min. 15 sec.

6- 1 ~ 8

〈聴こえる唄〉より
《コロスの唄》2010年
発色現像方式印画（全23点のうち8点） 東京都写真美術館蔵

From the Series, "Choros of the Melodies,"
Choros of the Melodies, 2010
Chromogenic print (8 from a series of 23 works)
Collection of Tokyo Photographic Art Museum

7- 1 ~ 13

《黙認のからだ No.1-13》2012年（プリント2020年）
発色現像方式印画（13点組） 東京都写真美術館蔵

From the series The Body of Condonement
**The Body of Condonement No.1-13, 2012 (printed
in 2020)**

Chromogenic print, set of 13 works Collection of Tokyo
Photographic Art Museum

8

《創造の発端—アブダクション／子供—、
‘A Piece of Cave 1-16’》2015年
16チャンネル・ビデオ・インスタレーション 各3分（ループ）
東京都写真美術館蔵

**The Beginning of Creation: Abduction / A
Child, ‘a piece of cave 1-16’, 2015**
16-channel video installation 3 min. each (loop) Collection
of Tokyo Photographic Art Museum

9

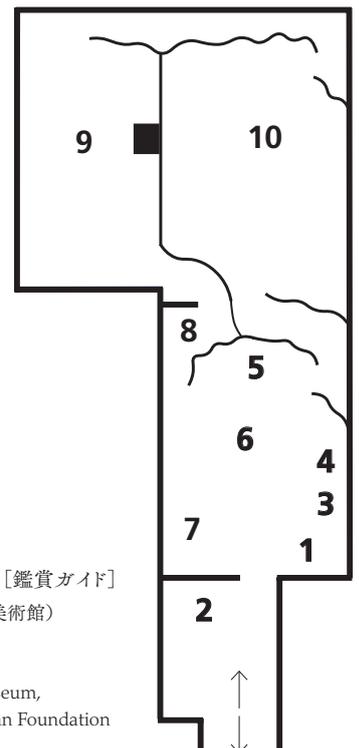
《土の人》2016年
3チャンネル・ビデオ・インスタレーション 23分 東京都写真美
術館蔵

Mud Man, 2016
3-channel video installation 23 min. Collection of Tokyo
Photographic Art Museum

10

《リフレーミング》2021年
3チャンネル・ビデオ&サウンド・インスタレーション／シングル・
チャンネルビデオ 33分22秒／3分

Reframing, 2021
3-channel video and sound installation/Single-channel video
33 min. 22 sec./3 min.



山城知佳子 リフレーミング [鑑賞ガイド]

執筆：岡村恵子（東京都現代美術館）

レイアウト：宗利淳一デザイン

発行：2021年8月17日

© Tokyo Photographic Art Museum,
Operated by Tokyo Metropolitan Foundation
for History and Culture